

2021年度 第2回 入学試験問題

国 語 (50分)

解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

一 次の文章を漢字に直しなさい。

- 1 症状がカイゼンする。
- 2 コウテツでできた機体。
- 3 現場にイアわせる。
- 4 ナツトクのいかない話。
- 5 みんなのサンドウをえる。
- 6 遠足がエンキになる。
- 7 キュウゴ室を利用する。
- 8 難局をダカイする。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(句読点や記号も一字と数えます。)

【1】^①人間以外の動物にとつて、生きることは食べることである。しかし、それを実現するには、いつ、どこで、何を、だれと、どうやって食べるか、という五つの課題を乗り越えねばならない。現代の科学技術と流通革命は、その多くを個人の自由になるように解決してきた。24時間営業のコンビニエンスストアや自動販売機^②、車や飛行機などの輸送手段や、インターネットを利用した通信手段。電子レンジやファストフードなどの調理や保存の技術。これらは私たちが、いつでも、どこでも、どんなものでも、好きなように食べることを可能にした。

【2】しかし、技術によっては変えられない課題もある。それは、だれと食べるかということだ。

【3】ふだん単独生活をしているクマやカモシカのような動物には、この課題は必要ない。なわばりをつくつて他者の侵入を防いだり、他者と出会わないようにして餌資源を確保したりすればいいからだ。A、群れをつくる動物は常にこの問題に直面する。とりわけ複雑な社会生活を営む人間にとつて、いっしょに食べる相手は重要である。もちろん、移動手段の革新によって、遠くに住む知人や親族に会うことができるようになった。だが、だれと食卓を囲むかは、昔も今も個人の自由裁量によっては決められない。

【4】古来、人間の食事には、栄養の補給以外にも他者との関係の維持や調整という機能が付与されてきた。いやB、他者という関係をつくるために食事の場や調度、食器、メニュー、調理法、服装からマナーにいたるまで、多様な技術が考案されてきたといつて

も過言ではない。どの文化でも社交の場として食事を機能させるために、莫大な時間と金を消費してきたのである。それは効率化とはむしろ逆行する特徴をもっている。

【5】サルは食事は人間とは正反対である。群れで暮らすサルたちは、食べるときは分散して、なるべく仲間と顔を合わせないようにする。数や場所が限られている自然の食物を食べようとすると、どうしても仲間とはち合わせてけんかになる。C、仲間がすでに占有している場所は避けて、別の場所で食物を探そうとするのだ。でも、あまり広く分散すると、肉食動物や猛禽類にねらわれて命を落とすおそれが生じる。仲間といれば外敵の発見効率上がるし、自分がねらわれる確率が下がる。そこで、仲間と適度な距離を置いて食事をするようになる。

【6】しかし、食物が限られていれば、仲間と出くわしてしまうことはある。そのときは、弱いほうのサルが食物から手を引っこめ、強いサルに場所を譲る。サルたちは互いにどちらが強いかわきまえていて、その序列にしたがって行動する。それに反するような行動をとると、周りのサルが寄ってたかってそれをとがめる。優秀の序列を守るように、勝者に味方するのである。

【7】強いサルは食物を独占し、他のサルにそれを分けることはない。サルの社会では、食物を囲んで仲よく食事をする光景は決して見られない。でも、サルの基本的な食物は植物なので、強いサルに独占されたからといって食物に困るわけではない。ちよつと移動すれば、食べられるフルーツや葉っぱが見つかる。要するに、サル社会のルールは、食べるときはけんかしないように分散して個食をしましよう、そのためには弱いサルが広く分散しましよう、ということなのである。

【8】けんかの種となるような食物を分け合い、仲よく向かい合って食べるなんて、サルから見たらとんでもない行為である。なぜこんなことに人間はわざわざ時間をかけるのだろうか。

【9】それは、相手とじっくり向かい合い、気持ちを通じ合わせながら信頼関係を築くためである。私は思う。相手と競合しそうな食物をあえて間に置き、けんかをせずに平和な関係であることを前提にして、食べる行為を同調させることが大切なのだ。同じ物をいっしょに食べることによって、ともに生きようとする実感がわいてくる。それが信頼する気持ち、ともに歩もうとする気持ちを生み出すのだと思う。

【10】ところが、前述した近年の技術はこの人間的な食事の時間を短縮させ、個食を増加させて社会関係の構築を妨げているように見える。自分の好きなものを好きな時間と場所で好きなように食べるには、むしろ相手がいないほうがいい。そう考える人が増えているのではないだろうか。

【11】でも、それは私たちがこれまで食事によって育ててきた共感能力や連帯能力を低下させる。個人の利益だけを追求する気持ちが強まり、仲間と同調し、仲間のために何かしてあげたいという心が弱くなる。勝ち負けが気になり、勝ち馬に乗ろうとする傾向が強まって、自分に都合のいい仲間を求めるようになる。つまり、現代の私たちはサルの社会に似た閉鎖的な個人主義社会をつくろうとしているように見えるのだ。

(山極寿一『ゴリラからの警告「人間社会、ここがおかしい」』毎日新聞出版より)

問一 —— 線①「人間以外の動物にとつて、生きることは食べることである」とありますが、「人間以外の動物」にとつて「食べること」の主たる目的は何ですか。五字で文章中から探し、抜き出して答えなさい。

問二 —— 線②「これら」の言い換えとなる十二字の表現を文章中から探し、抜き出して答えなさい。

問三 空らん A、 B、 C に入る最もふさわしい言葉を次のア～オの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号をくり返すことはできません。

ア、しかし イ、だから ウ、つまり エ、それとも オ、むしろ

問四 —— 線③「群れで暮らすサルたち」とありますが、「サル」が「群れで暮らす」利点はどんなことだと筆者は述べていますか。次の文の空らんに当てはまる十五字以上二十字以内の言葉を文章中から探し、抜き出して答えなさい。

可能性が低くなること。

問五 — 線④ 「その序列にしたがって行動する」とはどういうことですか。その説明として最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア、サルは仲間への思いやりがあつて、弱い仲間に手をさしのべることができるということ。

イ、サルはおたがいの力をわきまえていて、弱いものは強いものにさからおうとしないということ。

ウ、サルは食物をとる能力にひいでいて、強いものが見つけた取り方を弱いものもまねるということ。

エ、サルはなわばり意識が発達していて、仲間に自分のなわばりをゆずることができないということ。

オ、サルは群れで生活する習性があつて、一人ぼっちにならないように常に強い仲間にしたがうということ。

問六 — 線⑤ 「仲よく向かい合つて食べるなんて、サルから見たらとんでもない行為である」について

(1) 「向かい合つて食べる」とありますが、このように食べる人間に対し、サルはどうしているのですか。答えとなる十七字の表現を【4】～【6】の文章中から探し、抜き出して答えなさい。

(2) 「サルから見たらとんでもない」ような食べ方を人間がする目的について筆者はどのように説明していますか。「食物」という言葉を用い、「()を() (する) こと」が()ができるから」という形にまとめて答えなさい。

問七 — 線⑥ 「社会関係の構築を妨げている」とありますが、「社会関係の構築」が妨げられた結果、人間社会はどのようなものになると筆者は述べていますか。十字で文章中から探し、抜き出して答えなさい。

問八 文章の内容と合うものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、クマやカモシカのような動物は仲間と協力して餌資源を確保している。
- イ、社交の場としての食事を機能させるためには効率化することが重要である。
- ウ、個食の増加は人間がこれまで育ててきた共感能力や連帯能力を低下させる。
- エ、サルのお食は数や場所が限られているので群れから離れると見つからない。
- オ、優劣をわきまえることで人間はけんかのない平和な関係を維持できる。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(句読点や記号も一字と数えます。)

その日は少しへこんでいた。① サクラも歩きながら「どうしたの?」というふうにに小首を傾かげて見上げてくるが、「大丈夫だよ」と笑えない。

いつものコースを回っていると、立ち入り自由の芝生しばふのところででサクラがぐいっと横に逸それた。そのまま芝生とっしんに突進とっしんしていく。

「うわっ!」

芝生すわに座すわってちよつと一息、という風情ふぜいだったお兄さんは、完全に油断だんしていたらしい。弾丸だんがんサクラアタックを受けて、そのまま後ろへ引ひっくり返かえった。

「お前はー!」

お兄さんの抗議こうぎの声こゑなど知しったこっちゃもなく、サクラは仰向あおむけになつたお兄さんに乗りかかつて大はしゃぎだ。お兄さんはそのままサクラとプロレス状態たいげんになつてしまった。

杏奈あんなもリードだけはしっかり持つてそのそばにしゃがみ込む。

視線を落とした芝生の中、紅色の星形の小花があちこちに咲さいている。草の姿はまるでミニチュアのアヤメのようだ。ああ、これ。

せつかく見つけたのに、今は見つけたことが少し悲しい。

「……杏奈ちゃん、どうしたの」

サクラとの取っ組み合いに一段落ついたのか、お兄さんが気遣うような声で尋ねた。

何でもないと頭を振ったが、お兄さんは杏奈の視線の先をたどったらしい。

「それ？ かわいい花だよね」

「でもくだらないって」

杏奈は短く呟いた。言葉は短くしないと喉が詰まってしまいそうだった。

と、お兄さんはサクラをかまいながら何気ないふうに行った。

「かわいいことはくだらなくないよ」

取り立てて杏奈を慰めようとしている訳でもなく、ただ単純に事実を事実として気負いなく述べただけ、という口調に x y を衝かれた。

喉に詰まっていた固まりがすうっと溶ける。

「……でも、先生が」

お兄さんは目線で「ん？」と訊いた。その押しつけがましく促しに、却ってするりと言葉を引き出された。

「理科の教科書にタンポポの写真があったの」

授業は草花の造りについてのことで、身近な植物としてタンポポの写真が載っていた。

担任の若い女の先生は授業を進め、「何か質問はありませんか？」と生徒に訊いた。「何でもいいですよ」と。質問はありませんかと

言いながら、生徒を問答無用で指名するのはお約束だ。

今日は杏奈が当てられた。何か訊かなくてはいけない。

訊きたいことならあった。その写真を見ながらずっと気になっていた。——タンポポの根元に写り込んでいる、 ④ 紅色の星形の花。

右下のピンクのお花は何ですか？

何でも訊いていいと言った先生は、むっとしたような顔になった。そして、きつい声で言った。

授業とは関係ありません。そんなくだらない雑草なんか気に散らさないの。ちゃんと真面目に授業を聞きなさい。

クラス全員の前で叱しかられて、杏奈の心の中は大嵐おおあらしだった。

みんなの前で叱しかられて恥ずかしい。真面目に聞いていたのに悔くやしい。

自分がかわいと思った花をくだらないと言われて悲しい。

何でも訊きいていいって言ったのに、^⑥釈然しやくぜんとしなかったが、ごめんなきいと言わされた。そうして杏奈はその授業中、^⑦ずつと俯うつむいていた。

顔を上げたら泣いてしまいそうだった。

と、お兄さんが明るいい声で笑った。杏奈にとっては青天の霹靂へきれきだ。お兄さんとは仲良くなったと思っていた。杏奈に同情してくれると思っていた。それなのに、杏奈が辛い目にあつたことを笑うなんて。

だが、お兄さんは笑いながら言った。

「仕方がないなあ、その先生は」

^⑧これもまた思いも寄らない発言で、杏奈はますます混乱した。先生が仕方ないって？

「許してあげな、杏奈ちゃん」

杏奈が許す。叱しかられたのは杏奈なのに、どうして杏奈が先生を許すなんて話になるのか。

「先生さ、恥ずかしかつたんだよ。恥ずかしかつたから怒おこっちゃつたんだよ」

「どうして？」

「杏奈ちゃんの質問に答えられなかったからだよ。先生なのに質問に答えられないなんて恥ずかしいと思っちゃつたんだ。だから、八つ当たりしたんだ。この花の名前を知らない自分が恥ずかしいんじゃない、そんな質問をした杏奈ちゃんが悪いんだって生徒に言い訳しなかったんだ」

「そんなの……」

杏奈は唇くちびるを尖とがらせた。不満がもつれてすんなり口から出てこない。

「先生なのに。大人なのに。そんなずるいことしていいの」

「よくないよ。でも、杏奈ちゃんはずるいことしたことない？」

お兄さんに訊かれて、杏奈はまた **A** 籠こもつた。^⑨今までしてきた小さなずるの記憶きおくが点滅てんめつする。

「俺はするよ」

いつそ堂々と宣言されて、杏奈はまた [B] 食らった。こんなにあっけらかんとずるをすると言う大人なんか見たことがない。

「悪いことなのに」

「悪いことなのは分かっているけど、ずるいことするよ」

お兄さんは悪い人なのかな———と思つたとき、サクラが鼻を鳴らして杏奈を見上げた。つぶらな瞳に見つめられて、杏奈は思わず

[C] を伏せた。

ジュースの入ったカップを床に落としたときだ。カップの割れる音が響いて、お母さんが「杏奈！」と声を荒げてやってくる。———その場には杏奈とサクラしかいなかった。

サクラがじゃれてきたから落としちゃった。サクラはそのころ（今でも）イタズラ盛りだったので、お母さんは杏奈の言い訳をすんなり信じた。

お母さんの怒りはサクラに向かった。ペンと叩いて「ダメでしょ、サクラ！」。サクラは急に叩かれて、悲しそうにキャンと鳴いた。

その直後はサクラと目を合わせられなかった。黒いつぶらな瞳が責めているような気がした。———杏奈ちゃん、何でサクラのせいにしたの。サクラ何にもしてないのに。

サクラに見つめられたら嘘はつけない。

「……わたしも、ずるいことする」

ずるいこと仲間だ、とお兄さんは笑った。

「大人も子供もそんな変わらないよ。優しいときもあるし、意地悪なときもある。みんなフツーにちゃんとしててフツーにいい加減。大人なんて全然大したもんじゃないんだから先生だってそんなもん。杏奈ちゃんのことだって全然悪くないのに八つ当たりして叱る」

「……先生はちゃんとしているから先生なんだと思つてた」

杏奈が眩くと、お兄さんはいたずらっぽく笑った。

「がっかりした？」

「ちよつと」

「でも、自分が大人になつても程々でいいと思つたら気楽じゃない？」

それは確かにそうかもしれない。——杏奈だってこれから先、ひとつも悪いことをせずにはいられる自信はない。

(有川浩『植物図鑑』幻冬舎より)

問一 ——線①「サクラ」とありますが、「サクラ」は「杏奈」にとってどんな存在ですか。最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア、姉 イ、母 ウ、同級生 エ、飼い犬 オ、先生

問二 ——線②「言葉を短くしないと喉が詰まってしまうそうだった」とは、どのようなことを言っているのですか。最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア、大声で叫びだしそうなこと イ、ため息が出そうなこと
ウ、グラグラ笑いだしそうなこと エ、思わず泣きだしそうなこと

問三 空らん x、 y に漢字を一字ずつ入れると二字熟語になります。次のア～クの中から当てはまるものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア、標 イ、意 ウ、評 エ、位 オ、票 カ、表 キ、委 ク、医

問四 — 線③ 「お約束」とありますが、ここではどのようなことをそう言っているのですか。説明として最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア、ちゃんと真面目に授業を受けなくてはいけないということ。
- イ、身近な植物としてタンポポの写真が教科書に載っていること。
- ウ、どの生徒が質問するのかを先生の方が一方的に決めること。
- エ、いつも杏奈が授業中に当たることになっていたということ。
- オ、自分が悪くなくてもごめんなさいと言わなくてはいけないこと。

問五 — 線④ 「紅色の星形の花」とありますが、「お兄さん」と「先生」はこれを何と表現していますか。五字以上十字以内で文章中から探し、それぞれ抜き出して答えなさい。

問六 — 線⑤ 「むつとしたような顔になった。そして、きつい声で言った」について

- (1) 「先生」のこのような態度を「お兄さん」はどのようなものと見抜きましたか。五字で文章中から探し、抜き出して答えなさい。
- (2) 「先生」がこのような態度をとったのはなぜだと「お兄さん」は推測していますか。「名前」という言葉を必ず用いて説明しなさい。

問七 — 線⑥「釈然」の意味として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア、気持ちがあつさりするさま イ、思いがまったく通じないさま
ウ、ひとごとのように感じるさま エ、考えがはっきりしないさま

問八 — 線⑦「ずっと俯いていた」とありますが、その時の「杏奈」の気持ちを比喩を用いて表現している二字の言葉を文章の中から探し、抜き出して答えなさい。

問九 — 線⑧「これもまた思いも寄らない」とありますが、この前に「杏奈」にとつて思いも寄らなかったのはどのようなことですか。「杏奈が（ ）のに、お兄さんが（ ）こと」という形にまとめて答えなさい。

問十 空らん A、B、C に入る最もふさわしい言葉をそれぞれ次のア～カの中から選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号をくり返すことはできません。

- ア、目 イ、鼻 ウ、口 エ、耳 オ、面 カ、頭

問十一 — 線⑨「今までしてきた小さなずるの記憶」とありますが、「杏奈」が具体的に思い出したのはどのような記憶ですか。次の文の空らんⅠ・Ⅱに当てはまる言葉を五字以上十字以内で文章中から探し、それぞれ抜き出して答えなさい。

杏奈が（Ⅰ）ときに（Ⅱ）にしたこと。

問十二 — 線⑩「程々」とありますが、このことをくわしく説明している「お兄さん」の「 」に入ったひとままとりのセリフを文章中から探し、そのセリフの始めの五字を抜き出して答えなさい。

以下
余
白

